

# 知恵の環館

— 絵画コレクション② —



明治三十六、七年の追憶 不同舎アトリエの一時  
友ハミナあの世の人となりけり今やいつこに絵筆とるにヤ  
たね子

明治36年5月、18歳の福田たねは、洋画家小山正太郎の画塾不同舎に入門した。小山は安政4年、越後長岡藩医小山良運の長男に生まれ、お雇い外国人のフォンタネージから洋画の指導を受けた。明治期の美術界を支え、青木繁や坂本繁二郎など多くの弟子を育てた。たねが

不同舎を選んだのは、日光・五百城文哉の画塾で学んでいた時の先輩、小杉放菴がすでに不同舎に在籍していて、小杉を頼つてのことだったと思われる。そして、この不同舎で青木繁と出逢う。たねの四女、芥川やす子は、その時の様子を次のように語っている。「六月のある日、教室

で母はキャンバスに向かっていた。描いていたのは季節の花・紫陽花。そこに、乱れ髪の子がふらりとやってきたらしいの。そこで、青木は、微妙な色作りで、苦しんでいたたねの絵筆を奪う。母が何度試みても出せなかったその色が出来上がった。間もなく、ハッとするような紫陽花がキャンバスに広がったのよ(注)。

この画は、入門当時の様子を思い出して描かれたもので、当時の美術教育の雰囲気(ヌードモデルを使った制作)を知る手掛かりにもなる。ただ、不同舎での画作を通じたたねと青木の交歓が具体的な画として表現されることはなかったようだ。青木との触れ合いは、たねの胸の中にひっそりと残されていたのかもしれない。  
(注：『とちぎ20世紀』上巻、38頁、下野新聞社、2000年)

## しまたかしの 芳賀の自然 44



### クロヒカゲ

チョウ目ジャノメチョウ科

写真提供=芳賀町自然に親しむ会 撮影場所=町内

分布=北海道～九州  
生息地=山地～平地・人家付近  
時期=4～10月(成虫で越冬)  
発生=3～4回/年  
食性=イネ科のササ類  
大きさ=開帳55mm(羽を広げた最大値)  
特徴=羽の表面は黒っぽく、裏面に紫色で縁取りされた8～9個の眼状紋がある。ヒカゲチョウに似ているが地色が濃く、前羽の上半分は色が薄い。

## 編集後記 ● 広報はが12月号

□早いもので今年ももう12月ですね。7月に開局した芳賀チャンネルも6カ月目の放送に入ります。まだ、加入されていない方はぜひご加入ください。

年末から年始にかけての4週間は、総集編を放送する予定です。本編を見逃してしまつた方もダイジェスト番をお楽しみください。

(Y)



▲西水沼

◎編集 芳賀町広報広聴委員会

☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp

◎発行 芳賀町企画課

栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地

◎芳賀町ホームページアドレス

http://www.town.haga.tochigi.jp

④芳賀町の携帯サイトはコチラから➡



PRINTED WITH SOY INK™



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています  
ESPA：環境保護印刷推進協議会  
http://www.espa.com